令和2年度上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会（第4回）
会議録

【日　時】令和3年1月29日（金）9：30～11：30
【出席者】委員　　10名（中山委員、鶴谷委員、美馬委員、服部委員、牧浦委員、安中委員、渡邉委員、東谷委員、岩井委員、西山委員）
担当課
（社会教育課）　6名
【欠席者】委員　　4名（梶野委員、平塚委員、森川委員、高井委員）
【傍聴人】　　0名
【事務局】　　5名（阪本部長、中川理事、辻村補佐、日髙係長、髙野主事）

1. 開会
・10名の委員が出席であるため、会が成立していることの説明

2. 議題
（1）上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について
【学校支援事業の研究・協議】、【学校を中心としたコミュニティ網の形成】、【子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営】

担当課　：＜学校支援事業の研究・協議、学校を中心としたコミュニティ網の形成、子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営について説明＞

安中委員：上牧町は、学業はもちろん、子どもたちの心を育てるということも大切に考えていると町長がおっしゃっていた。とても良いことだと思うので、子どもの心を育てていく取組の一環として、身体障がい者の方々との触れ合いなど、身体障がい者の方々の理解を深めるような内容、例えば簡単な手話などを、授業に取り入れてはどうか。小さい頃から差別のない、お互いに助け合う方法があるということを伝えることもこの取組の中に入れていただければと思う。

担当課　：そういう内容については、学校教育の中で実施するものであると考えている。今回の検証内容は社会教育の取組で、学校教育を助けるというイメージの事業になっている。学校教育については、担当が教育総務課になる。

渡邉委員：「7.子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営」の分析の表について、例えば環境支援は上牧第二中学校が多いが、一方で放課後学習支援は上牧第二中学校では行っていない。支援内容はコーディネーターの考えによって違うのか、学校との話し合いで変わるのか、どういう考え方なのか教えてほしい。

担当課　：支援は、コーディネーターの意見ではなく、学校の要望に応じて行っている。

牧浦委員：「7.子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営」の表の支援人数と、「1.学校支援事業の研究・協議」のKPIの目標値220人の違いを教えてほしい。あと、私はボランティアに参加しているが、支援活動の日程が被ることがある。支援の日程が被らないように調整することはできないか。今後そういう調整をコーディネーターができないのか教えてほしい。

担当課　：「1.学校支援事業の研究・協議」のボランティア登録人数は実人数である。複数の分野でボランティア活動をしていただいている方もいるので、分野ごとの人数の合計に

なると少し変わってくる。日程については学校ごとで活動日を調整していただいており、コーディネーター間での調整はしていない。今後の課題として、日程の調整等について検討させていただきたいと思う。

美馬委員：ボランティアの件について、コーディネーターの役割を教えてほしい。

担当課　：今のパートナーシップ事業は、学校の意向に応じて支援を行っている。コーディネーターには、学校が希望する活動に対して、どの分野のボランティアに来ていただくか、調整してもらっている。

美馬委員：現在ボランティアは高齢の方が多い。高齢の方は、今後参加できなくなる時期が来ると思うので、人員の確保をどう考えているか教えてほしい。

担当課　：ボランティアの募集は、随時行っており、新しい方に来てもらえるよう PTA などへの働きかけも行っている。人材確保が難しいということは実感しており、今後も自治会や PTA にお願いをするなど、広報等を進めていきたいと思っている。

美馬委員：ボランティアをしてくれる人は少ない。上牧第二中学校のボランティアに参加しているが、人数を維持するだけでも大変だと感じている。人材確保について、アピールの方法など、もう少しアイデアを出して実施していただけたらと思う。

東谷委員：「1.学校支援事業の研究・協議」の令和 2 年度実施予定の「学校コミュニティスクール」という記載について、これは、学校運営協議会制度のことか。

担当課　：そのとおり。

東谷委員：そういうことなら、「学校コミュニティスクール」ではなく「コミュニティ・スクール」が正式名称である。また、「1.学校支援事業の研究・協議」の事業の見直しの余地のところで、「学校・地域パートナーシップ事業から学校コミュニティスクール設置へ高めていく」という記載があり、前身が学校・地域パートナーシップ事業で、その向かうところがコミュニティ・スクールだという書き方であるが、コミュニティ・スクールは、学校に対して、地域、保護者が、学校運営に関して意見を申し述べることができるという制度であり、一方学校・地域パートナーシップ事業はそういったことやボランティア活動などすべて含めた事業である。範囲としては学校・地域パートナーシップ事業の方が大きな範囲で、その中に学校運営に関して、コミュニティ・スクールとして地域、保護者の意見を反映していくことになり、パートナーシップ事業の中に含まれていくように思う。また参考にしていただきたいと思う。

副委員長：「7.子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営」の事業の分析のボランティア活動実績について、登下校見守り支援で上牧第三小学校の実績が 6 日 22 名というのは、他に比べて明らかに低い。この要因について教えてほしい。

担当課　：上牧第三小学校の活動実績が少ない理由としては、パートナーシップ事業としてではなく、自治会の活動として見守り支援を行っている方が多いためである。パートナーシップ事業が始まる前から、自治会で見守り活動をしていただいる。

副委員長：自治会の方々にパートナーシップ事業のボランティアとして入ってもらうことも可能ではないかと思う。今活動している人たちになるべく担い手になってもらう、入ってもらえそうな人たちへのアプローチというのは優先順位が高いように思う。

担当課　：今後そういったことも人材確保の一つとして、検討していきたいと思う。

副委員長：学校の先生や学校関係者は、この制度をどう思っているのか。来てもらって助かっているということであればそれでいいと思うが、何か日程を決める時に学校側がイニシアティブを取れないなど、そういう状況にはなっていないか少し心配である。

担当課　：コーディネーターの方で日程調整をしており、学校としては来ていただくだけでありがたいという声を聞いている。コーディネーター主導で、学校の実情を聞きながら、先生でカバーできないところを支援していただいているということで、スムーズにできているように感じている。自治会の見守り隊については、その地域で伝統として引き継がれているところもあり、それも学校に協力するという一つの形で、伝統としてやっていきたいという思いも地域の中にはあり、調整が難しい状況である。今後担い手が高齢化していくことも含めて、色々検討していく必要がある。

副委員長：自治会として自発的に活動してもらっているというのは望ましい形だと思う。既に活動されているのであれば、活動の範囲を広げてもらうことも含めて、周知や案内を行っていくなど、自治会にもっと協力していただくことが必要ではないか。もう少し活動範囲を広げていただけるよう、何か考えてほしい。あと、先生方がこの事業をどう思っているかについては、比較的うまくいっているということであるが、本当に先生側からの意見がないかどうかについては、今後、聞き取り調査やアンケートを実施することで、潜在的な課題についても解決に向けて進めていけるのではないかと思う。

安中委員：ボランティアの募集について、興味を持ってもらうためには、参加すると楽しそうだというようなポイントが必要だと思う。事業のイメージを持ってもらいやすいインパクトのあるデザインであれば、参加してみようと思うかもしれない。

担当課　：チラシは重要だと思うので、何年か前から写真を多く載せて、カラーでチラシを作成している。更に興味を引くようなチラシを作成できるように考えていきたいと思う。

渡邉委員：各学校に学校評議員がいると思うが、そういう方の活動は、評価シートに載せるようなものではないのか。私の経験から言うと、評議員というのは、教育内容だけではなく、登下校のことから学校全般について、意見を求められている。評議員の活動が内容から抜けているように思うが、評価シートの内容とは別ということか。

担当課　：評議員については、教育総務課と学校の話になるが、現在の総合戦略の取組の中では、評議員の活動を記載するような項目がなかった。総合戦略改訂版では現在の取組内容6がコミュニティ・スクールに関する取組となり、評議員のもう一つ上の段階の話になるので、コミュニティ・スクールの取組の部分では、今後、社会教育課と教育総務課の両方を合わせた形で、そういう話はでてくると思う。

副委員長：地域コーディネーターはどんな方が担うのか、任期なども含めて教えてほしい。

担当課　：上牧町の場合は、PTA役員などをしている保護者の方が中心となってコーディネーターをしていただいている。任期はなく、長年続けていただいている方も多い。

副委員長：コーディネーターは完全なボランティアなのか。

担当課　：報償費（時給）が発生している。

副委員長：地域継続性を考えていく上で、コーディネーター同士の協議や長期的な計画の策定、コーディネーター間の連携を進めていくことも必要ではないかと思う。コーディネーターの役割に対して、課題の洗い出しが必要だと思う。また、県主催の研修に行くなど、コーディネーターの役割を知る機会を作っていただいていると思うが、経験のない方だど引き受けにくいこともあると思うので、例えば、PTAのOBになってもらう方が長続きするのかなど、そういうことも含めて、どう考えているかお聞きしたい。

担当課　：コーディネーター同士では、年に3回ほど集まって現状の問題点などを話し合う場を設けている。活動が重ならないようにするなど、今後も連携を図っていけるように働きかけていきたいと思う。

安中委員：以前見守り支援の会議の中で、コーディネーターの方から、コーディネーターとしてお金をもらって活動しているが、ボランティアの方の理解がなかなか得られず、とても辛いという話があった。報償費を支払ってその役割についてもらっているのであれば、その方々を守るというところで立ち位置をもう少し明確にした方がいいと思う。

美馬委員：コーディネーターの役割が分かりづらいと思う。現在、各分野のボランティア活動への参加人数に偏りがあることもあり、そういう調整をしてくれるといいと思う。もう少しコーディネーターの役割を明確にしてほしい。

担当課　：校長先生やPTAの方に入ってもらっているパートナーシップの会議があるので、その中でまた検討していきたい。

【学習支援教室の開催】

担当課　：＜学習支援教室の開催について説明＞

牧浦委員：参加人数の表を見ると、上牧小学校の参加割合が、平成30年度と令和元年度は2割台になっている。これはお迎えが理由で減っているのか。

担当課　：上牧小学校については、他の小学校と違って、まきっ子塾の開始が1時間早く、お迎えの時間が調整できないということが要因だと考えている。

牧浦委員：お迎えが必要ということで参加が難しい方もいると思う。事業が始まって5年ぐらい経つと思うので、お迎えの方法など、参加しやすくなる方法を考えてほしい。

担当課　：お迎えは、安全安心のために今まで通りの形で進めていきたいと思っている。

副委員長：今の話で、上牧小学校で1時間早く始まるというのはなぜか。

担当課　：学校の都合もあり、そういう形になっている。

副委員長：例えば、一律に同じ基準で実施するのではなく、上牧小学校はまきっ子塾の時間を1時間延長するなど、時間を伸ばすことも検討してはどうか。

担当課　：また学校と相談して、調整していけたらと思う。

副委員長：まきっ子塾は学校の先生のOBや大学生が学習アドバイザーになっていると思う。私は奈良県立大学だが、大学生に情報提供しても、場所が遠いということもあり参加が難しいことが多い。他の大学生の参加状況を教えてほしい。

担当課　：令和元年度においては、畿央大学3名、奈良教育大学3名、奈良女子大学1名、奈良学園大学3名の計10名の方に来ていただいた。例年10名程度である。

副委員長：将来教育職を目指すような学生にとっては、魅力的な取組だと思うが、今コロナ禍で授業はほとんどオンラインで行っている状況で、大学生が自由に活動できる時間が少なくなっており、こういう取組に参加したい学生が二の足を踏んでしまう可能性が高くなるのではないかと懸念している。多くの人材に来てもらうための仕組みづくり、大学生をサポートしやすい環境について考えていただければと思う。参加している学生が後輩を引っ張ってくるという形だと継続的に参加できると思うので、その辺の仕組みについて検討してほしいと思う。

委員長　：今の点について、参加した学生には何か感謝状のようなものを出したりするのか。

担当課　：感謝状はないが、学習アドバイザーの方には報償費が出る。

委員長　：この取組への参加について、履歴書などに書けるような何かがあれば、採用試験を考えている学生は来やすいかもしれない。

担当課　：大学からまきっ子塾に参加した学生について問い合わせがあることもあるので、また、参加の証明になるようなものについて考えていけたらと思う。

【様々な専門講座の開催】

担当課　：＜様々な専門講座の開催について説明＞

副委員長：専門講座の内容についてはどうやって考えているのか教えてほしい。

担当課　：課内で検討している。

副委員長：その時に参加している子どもたちの意見を取り入れるようなことは考えているのか。

担当課　：参加者に聞き取りをするなど、意見を吸い上げて課内で調整している。

副委員長：今後も新型コロナウイルスの影響で開催できない場合は、これまで参加した子どもたちに対して何かアプローチするというのも一つの方法だと思うし、今の時代に合ったやり方について聞いてみるのも一つだと思う。

担当課　：子どもの教室についてのアンケート調査も考えていきたいと思う。

服部委員：専門講座について、子ども達の体を動かすような講座はないのか。

担当課　：体を動かすというより、学力向上に向けて、現在は理科の講座を中心に行っている。

【スポーツ教室や野外活動教室の開催】

担当課　：＜スポーツ教室や野外活動教室の開催について説明＞

牧浦委員：事業見直しの余地で、「野外活動を中心とした体験講座に事業を変化していく方法も一つの方法」と書いてあるが、ジュニアリーダーの養成を中心にするのではなく、野外活動を中心に事業を行っていくということか。

担当課　：参加人数が減っているので、今後どのようにしていくべきか、課内でも検討中である。体験学習にすることで、より多くの子どもに来ていただく可能性が高くなるのではないかと考え、体験型に変えていくのも一つの方法ではないのかと考えている。

牧浦委員：登校などを見ているとジュニアリーダーの子ども達は地域の中心になってくれているように思う。ジュニアリーダーの養成は大事だと思うので、参加者を確保するために内容を体験型に変化させていくのも一つの方法だと思う。今のジュニアリーダーを中心に、参加者を増やす工夫をしていってほしい。

渡邉委員：研修の中に、防災教育も入れてほしい。東北の地震の際にも、中学生、高校生など、一番体力のあるところが動いてくれた。町内でも防災訓練があるが、参加者はお年寄りが多いので、防災のことを教える機会があればいいと思う。もう一つはボランティア精神を育てるような教育もあればいいと思う。地域によってはごみ出しができない方の代わりに中学生がごみ出しを手伝うところもある。上牧町では、要支援の認定状況によって、生活環境課がごみを取ってくれるが、それ以外は、地域内で対応する必要がある。ボランティア精神を育てることで、中学生が自発的に動くようになれば理想である。防災やボランティア精神に関する内容も考えて欲しいと思う。

担当課　：年 10 回程度リーダー研修をしているので、防災士の方にも声をかけて、話し合いをさせていただきたいと思う。

委員長　：子どもの頃からこういうリーダー養成で積極的に行政が関わっていくのは、地域コミュニティやボランティアなど色々なものを発展させていく上で極めて重要だと思う。ただ、野外活動を中心とした体験講座に変えていくことになると行政が行う必要があるのかという感じにもなるかもしれないので、また課内でも検討していただきたい。

【すべての学習活動を道徳教育や人権教育を意識し推進】

担当課　：＜すべての学習活動を道徳教育や人権教育を意識し推進について説明＞

副委員長：事業内容やアンケート満足度から考えれば、このまま続けていただきたいが、コロナ禍の状況で、今までどおりイベントを開催していくのは難しいように思う。他の取組でも話したが、デジタルコンテンツを活用すれば、多くの人に参加してもらえる機会になるのではないかと思う。1か所に集まって時間を拘束して実施する形ではなく、色々な人が自由に見ることができる状況になってきていると思うので、YouTube等の活用など、町の情報発信と連携し、できるだけ多くの方に参加してもらうための仕組みも検討してはどうか。今後コロナが継続すると考えて、多くの方に視聴してもらうためにはどうすればよいかという観点から考えていただければと思う。

担当課　：今は講師の方に来ていただくことも難しい状況で、課内ではオンラインの活用も考えているが、インターネット環境が整っていないので、環境整備も含めて検討を進めていきたいと考えている。

【久渡古墳群等の文化財の保存及び整備の推進】

担当課　：＜久渡古墳群等の文化財の保存及び整備の推進について説明＞

副委員長：KPIの歴史ボランティアガイドの養成人数について、現時点で目標値を達成するための目途が立っているのか教えてほしい。

担当課　：令和2年10月からガイド養成講座を開始し、現在の参加人数は18名である。

副委員長：ボランティア養成講座については、来年以降もボランティアを増やすために実施していくのか、それとも現在の参加者に講座を受けてもらうようなイメージなのか。

担当課　：今の18名を中心に継続していく予定であるが、新規の方にも入っていただきたい。

岩井委員：ボランティアの方は、年配の方が多いと思うが、若い世代、普段働いている人に知ってもらう活動というのは、何か考えているのか。

担当課　：令和2年度にボランティアガイド養成講座を開始したばかりで、活動は令和3年度から始めていく予定である。活動に合わせて周知を図っていきたいと思っている。

岩井委員：取組の周知には、SNSの活用が効果的だと思う。上牧町はLINEを活用していると思う。LINEだと必ず通知が届くので、情報が届きやすい。登録者を増やすことも考えて、積極的に発信していくと、より効果的な事業周知に繋がると思う。

担当課　：現在、YouTubeへの動画配信をいくつか考えているので、YouTubeに配信するときは、LINEも活用して広報していきたいと思う。

安中委員：最近「歴女」という言葉もよく聞くので、歴史に興味のある若い層に来てもらう工夫を考えていけば面白いと思う。

3.その他

・事務局から提言書等の最終調整について、説明を行った。

4.閉会

以上